

この低さは異常！再任用率は60%程度に！

3月11日、ほとんどの学校職場で「2017年度当初人事異動」の「内示」が行われました。その詳細については、明らかにはなっていないですが、とりわけ深刻になっている「再任用」問題について、札幌支部は、石狩管内における独自調査を行いましたので、その概要について(特に、ここでは、超低再任用率の高校教諭について)この紙面でお知らせします。

管理職を除く定年退職者数61名。うち再任用者は37名(フルタイム 11名)。定年退職者に対する再任用率は、約60%という状態にとどまっています。「無年金期間が2年」となる2年目にしてまたこの状態です。再任用者の中には、自校での継続や管内校の方がある一方で、釧路・帯広・オホーツク・檜山などの地方への赴任を余儀なくさ

任命権者の責任



道高教組札幌支部
(札幌市中央区大通西12丁目
北海道高等学校教職員センター
3階)
TEL 011-271-5875
FAX 011-271-5895

また、再任用を希望している方も相変わらずいらっしやいます。また、再任用を希望しているも、親の介護や本人の病氣通院のこと等々様々な理由で自宅を離れての再任用ができない方も多く、この制度の矛盾が露呈しています。定年退職者が安心して働ける条件整備は、待つたなしの課題です。あらためて道教委の任命権者としての責任が問われます。

昨年までに退職された方の再任用の状況はどうなっているか。高校教諭の例で紹介します。既再任用者は、石狩管内で89名。そのうち再任用された方は、74名。うち自校継続は57名。他校への異動者は17名。多くの方々は自校継続となつていますが、毎年(のように)異動を余儀なくされている実態もあります。5年目を迎えるAさんは「日高・道

東として札幌では2校目、またSさんは「管内だが今年で5校目」。支部定期大会でも紹介されましたが「自分は子どもたち学校のために役に立っているのだから」「毎日悩みながらの教員生活は大変です。」「じっくり子どもたちを向き合いたい」と考えれば考えるほど、こんな制度や人事のあり方に憤りを感じます。

「人事異動状況」について、今後詳細が明らかになりますので、今後あらためてみなさんへ情報提供していきます。

来年度退職者からは、「無年金期間3年」時代に突入します。これまでに上に、「定年延長」制度への転換が必要になってきますし、少なくとも現行制度の間は、「雇用と年金の接続」を定めた閣議決定を遵守するため、再任用制度の完全実施は原則です。

矛盾だらけの再任用制度を改善させる闘いが、ますます重要ですが、私たち道高教組とともに引き続き頑張っていくことを呼びかけます。

「国の教育ローンを借りられず、入学金を払えないので、専門学校入学を辞退します」と生徒から連絡があった。その生徒は飛行機の誘導等の仕事に就くのが夢で、そのためにアルバイトで学費を貯め、奨学金の申請もしていた。TOEICや航空検定なども受けてきた。

今までは保護者面談で、国立大学の授業料と入学金合わせて約80万円と説明をする。保護者はその金額にビックリする。私立はさらに50万〜80万円ほど必要になると伝えると、とっととショックを受けるといえる。対象者はごく一部とはいえ、社会に出る前に多額の借金を背負うことになる。分割で学費を納入できる大学もあるが、ほとんどが前期、後期でまとまった金額を納めなければならず、進学を諦めざるを得ない家庭もある。

日本は先進国であるにもかかわらず、約6人に1人の子

子ども納得がなくなっている

子どもでもない教育を行って、いようと「便宜」を提供され、まじめに頑張っている国民には「自助努力」を求め、国が教育ローンを提供し借金を強いる。文科省は自分たちの天下りに精を出す。こんなことになっていく社会はおかしいじゃないか。優秀な生徒や夢を持った生徒が、経済的な格差にかかわらず、希望を持って学べるような社会に変えなければ。そんな思いを強くした。

(H・I)

高教組のバトンを若い世代に

札幌南高校定時制
多奈田 泰久

新任の網南定時制では卒担を経験できなかったため、定年まで五年を残し札幌定時に移りました。年度途中から担任を引き継ぎ、昨年三月に教員生活最後の卒担として卒業生を送り出すことができました。計画より一年早かったため、最後の一年をどうしようかと思索していたところ、新採用の若い先生が来るということ、二人で学年を持たせても

退職にあたって

つむじゅ

打てば響く生徒会の子どもたち(つむじゅ) 札幌北陵高校 柴崎 由春

1957年(昭和32年)1月に生まれました。大阪の生野区の小さな長屋の一角が生地です。貧乏でした。小中高と地元で過ごし、大学は京都へ。就職活動もせず、4年間地元大阪の非常勤講師をし、おもいきって北海道の教員採用試験を受けると受かってしまい、悩んだ末にこちらに赴きました。

初任地は、道東の農業高校です。はつきり言って辛かったです。

たです。生徒も大変でした。この時初めて生徒会を担当することになり、これをきっかけに生徒会畑を歩んでいくことになりました。数年を除く30年間、ほぼ生徒会担当として過ごしました。人気がない分掌ですので、希望は必ず通りませんでした。希望しなくても「生徒会担当をお願いします」ということで担当しました。

自分にとって「生徒と向き合う」ということの一番現実的な形が生徒会でした。「打てば響く」生徒会でした。全道の生徒会の先生たちとも繋がりが持て、本当に楽しく過ごさせていただきました。

この3月12日に、歴代生徒会の生徒(上は26歳、下は19歳の生徒)たちがほぼ40人くらい、私の退職を祝う会をホテルで開いてくれました。本当に嬉しかったです。いわゆる「教師冥利に尽きる」という感慨を持ちました。

窮屈な教員環境になってきたように感じています。非組合と関係なく何かギスギスした雰囲気や何となく漂っています。ちょうど潮時としてはいい頃合いでしょ。年金が出ませんので、もう少し働かねばなりません。あつという間の教員生活でした。みなさんありがとうございます。

「ゆいま〜る」参加報告



子どもを守る「かたか」(防波堤)として

札幌あすかせ高校分会
清水大博

「基地があるから沖繩が守られているなんて誰も思わないよ。逆に基地があるから戦争の時に真っ先に狙われるんだ。」

これは沖繩現地の方の悲痛な叫びである。日々、自分たちの「尊厳」を守る闘いが辺野古では行われていた。私はこのような闘いが行われていることを、事前学習をするまでは何も知らなく、罪悪感が募った。しかし、「実際に来てくれて、何が起きているのか分かってもらえて、嬉し

い」という「おばあ」達の声に救われた気がしてならなかった。「中立はない」これは全体集会での三上講演の一節である。日本政府と沖繩県は、基本的人権や生存権を「奪う」という構図になっている。そこには「中立」というものはない。われわれが、いじめを発見した時、加害者と被害者の「中立」に立つて、半々双方の意見を聞いたりはしない。絶対的に加害者が悪い。しかし、なぜ日本政府との構図においては政治的「中立」が異常なまでに求められるのか。そこには国家のために地方は従属せよ、という差別意識が、根強く残っているからではなからうか。「ゆいま〜る」集会のねらいは、憲法を守りいかす運動を若い世代が継承することで、子どもを政治権力から守るための「かたか」(防波堤)として、これからも「教え子」を再び戦場へ送るな!という高教組のスローガンを掲げ、日々の実践を行ってほしい。

